

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401673		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム「庄司屋敷」		
所在地	長崎県島原市有明町湯江甲1347番地		
自己評価作成日	令和 元年 8月 14日	評価結果市町村受理日	令和元年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我々のホームは海と山が一望できる大自然に囲まれた所となっており、入居者様が慣れ親しんだ木造の作りになっていて、温かみを感じながら生活出来る環境となっております。日々の生活ではレクレーションを通じて、運動を行い個人の能力の維持を兼ねて体操等を実施しております、3ユニットが横に連なっているので、端から端までの廊下が約100mあり、歩行訓練や散歩などで利用出来ており、毎日の下肢筋力低下予防運動にも役立っております。また、年間行事予定を組んでいて、季節に合ったメニューや外出などで、毎日の生活を楽しく過ごして頂ける様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島原半島の北東部に位置する閑静な地域の一角にある当ホームは、開設より16年目を迎える。『まごころ』と『笑顔』を軸とした理念を掲げ、入居者が安心できる生活の提供を根拠にした支援に取り組んでいる。職員は入居者の表情や体調の変化から「入居者がしっかりと食事を摂って、日中どれだけ笑顔で過ごせたのか」を汲み取り、小さな変化も見落とさないよう入居者に寄り添ったケアに努めている。ホームは建設業を母体とした介護事業者でもあることから、住環境の面からも入居者の「暮らし」を支え、地域での住みやすさ、機能性と美観を活かした運営を行っている。今年度は管理者の交代があり、若い力での職員間の横の繋がりが実践力の強化への取り組みに期待が持てる。介護職員の確保や職員育成といった課題が挙げられる中、職員個々が日々の介護実践の課題を過程から客観的に捉え、抽出された課題を実践に繋げる力の育成に努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも職員の目に入る所に貼り、皆で共有し実践に繋げている。	ホームでは「まごころ」と「笑顔」を軸にした理念を共用空間に掲げ、現場で管理者が支援の実践を図ることで職員への周知を図っている。経験豊富な職員が新人の教育に就くことで介助の在り方を振り返っているものの、職員によっては理念の捉え方に差異が生じている現状が窺える。今後、理念浸透に向けた更なる取り組みに期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ソーマン流し)や小学校の運動会など誘いがあると職員、利用者様と一緒に参加し、地域の方にも施設の行事に参加されるよう声を掛けている。	運営推進会議を通して地域のホームへの理解が深まり、今年は避難訓練参加へと繋がった。管理者は小学校の福祉体験の事前研修としてホームの概要や高齢者との関わり方への講習に参加し、子どもたちが入居者とスムーズに関われるよう働き掛けている。また、これまでの取り組みによって進学後もホームと関わりを持つ子どもも多く、介護職就職への期待を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも自由に見学出来る様に開放し、職場体験、福祉体験などの学生も受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開き、地域の方、家族の方にも参加して頂き、要望を尋ねたり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議では参加者からの問い掛けも多く、行事や食事に参加してもらうことで支援の目的や内容を理解してもらえるよう努めている。運営推進会議や避難訓練の場面で参加者に実際に確認してもらうことで客観的な意見を得ることができ、支援の評価に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報を提供し問題解決に努めている。	ホームは諸手続きの申請の際に行政担当者との関わりを持ち、気になることを積極的に問いかけながら課題解決に迅速に取り組んでいる。管理者は島原半島の連絡協議会に出席しながら担当者と顔の見える関係を築くとともに、施策の動向について情報を得ながら良好な関係を保てるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し身体拘束について勉強し、ミーティングの時に話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。	ホームでは運営推進会議開催時に身体拘束への取り組みを示し、「身体拘束をしない」方針について参加者の理解を図っている。今年度は職員の資質向上に向けて虐待防止に関する外部研修に参加し、研修参加者から他職員への伝達講習を行っており、月1回のミーティングでは介助の在り方について振り返り、考え方を見直す取り組みもやっている。但し、言葉遣いについては職員によって差異が窺われ、職員も課題として認識している。今後の更なる取り組みが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やセミナーで得た情報を職員間で話し合い、お互いに注意し合える環境を作り、虐待、身体拘束をしないケアをするように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やセミナーに参加し勉強会等開き、職員間で話し合い努力して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い改正があった場合は連絡し理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時や電話連絡にて、日常の状態を報告し、要望を尋ねたりし日々の運営に反映させるよう努めている。	年1回行われる家族会は法人内介護部門3事業所合同で開催し、長寿の祝いや家族との交流を図っている。ホームは入居者や家族の心情に寄り添い、電話連絡を中心に声でのやり取りを大事にしている。主なやり取りについては管理者が行い、細目に報告することで家族の不安や不信感に繋がらないよう努めている。	現在ホーム便りの発行で運営や支援の様子が示されているが、一部入居者家族が個々に本音を伝えにくい現状が窺われる。個人の暮らしぶりや医療の状況などの情報を家族に示すなど、更に家族との関係性を深める方法や具体策を職員間で話し合い、家族との信頼関係を構築していくことが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月「人事部だより」というものを発行し、意見や提案を聞く機会を作り、反映させている。	現在、月1回の職員会議や毎日の申し送りやユニット毎の支援の振り返りや、ミーティングノートを活用しながら他棟の入居者の情報共有を行っている。現在、人材不足の課題を抱えているものの、ユニット間で必要な人員を補うとともに新規採用職員には個々の能力に応じた指導をしながら職員の介護レベル向上に努めている。	ホームでは人事部便りというツールを用いて法人の方針の共有を図っているが、職員意見が上手く集約されず、介護職の働き甲斐や働きやすさといった課題など、人材不足解消が困難な状況が窺われる。例えば、各ユニット職員間の交流の機会や話し合いの場を設けるなど、更なる資質向上に繋がる取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しずつ給与、労働時間など職場環境、条件の整備に努めて貰っているが、介護職員不足の為に中々難しい物がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などに交代で参加し、内容をミーティングなどで報告し話し合い、実践で取り組むよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会などの研修会や病院や法人での研修会の場への参加を促し、参加した同業者と交流を持ちサービスを向上させていけるよう努力して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の声に耳を傾け、会話を増やし要望を尋ね出来る限りのサービスを提供出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安な事などどこまで対応し、要望に応えられるかスタッフ間で話し合い努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援を必要としているか見極め、希望に添えるサービスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話等をしたりしながら、本人の出来る事、得意なことを一緒にするなどし、暮らしやすいように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の絆を大事にしながら、情報交換の場を持ち支える様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や身内の方々の面会は大変喜ばれる為、いつでも気軽に会いに来て頂ける雰囲気作り努めている。	ホームでは外出や外泊の申し入れを積極的に受け入れ、受診の帰りに入居前に住んでいた地域を経由するなど外部との関わりや本人がこれまで大事にしてきた人や場所との繋がりが途切れないよう努めている。ホームで外出する際には入居者にとって馴染み深い場所を選び、その方の思い出に触れることができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気楽に会話出来る環境を作り、共に生活する人達が孤立しないよう助け合い支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近況を尋ねたり、他の事業所へ移られた方にも会いに行く機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大事にし、暮らしやすいように努めている。	職員は入居者個々の心情の理解に努め、本人の話や表情の変化に寄り添いながら暮らしの意向把握に努めている。ホームは報告し合うことの大切さを職員間で共有し、重度化によって意思疎通の困難さがある入居者については職員個々で思いの捉え方に差異が生じないよう職員間で話し合う場を設け、その方の理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らしについて生活シートを作成してもらったり、会話の中で本人に尋ね把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な活動への参加を促し活動の中で心身の状態や有する能力を把握し、個々の生活を維持出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望や思いを聞き、出来る限り希望に合った介護計画の作成が出来るよう努めている。	ホームでは家族面会時に入居者の状態変化を報告し、現状への理解や今後の方針について話し合いながら目標設定や支援内容の検討に取り組んでいる。介護記録には支援の進捗状況を記録し、目標を掲げてどうだったのか職員間で振り返りや話し合いの機会を設けながら、次回の介護計画の立案へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄、本人の言葉、エピソード、介護目標に添った様子等を個人記録に記入し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせた支援を行い、通院や買い物など柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中・高生の福祉体験を受け入れ、地域との交流を図り、2か月に1度美容サービスを受け入れもっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や往診、特変時で困った事等の相談を24時間体制で出来るように医療提携している。	ホームは入居者の受診の都度現状について職員間で確認し、受診記録票を介して本人の状態や今後の心身の変化の見通しを共有し体調管理に努めている。介護記録には日々の体調を記録し、内服薬の変更や追加があった際には医師へ状態報告や対応方法の指示を仰ぎながら適切な医療へと繋げるよう取り組んでいる。一部家族に向けた情報提供の不足が窺われるため、今後報告の手段や家族の安心を図る取り組みに期待したい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の状態を記録し、毎週1回の訪問看護師へ相談したり、指示を受け適切な受診が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院関係者と情報を交換し退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携を取り家族と相談し、より良いケアに対応するよう努めている。	ホームでは看取り指針を整備し、家族や医師と話し合いを重ねながら本人を主体とした互いに良い状態で最期を迎えられるよう支援に努めている。入居者がこれまで送ってきた生活を振り返り、本人や家族が望む最期の迎え方を検討しながら状態に応じた支援と関わり方で入居者が安心して過ごすことができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習や研修に参加し、実践力を身につける様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の消防訓練を行い地域の消防団や自治会の人にも見学、参加して頂き、消防署より意見を頂き避難場所、移動手段の協力体制を築けるよう努めている。	ホームでは消防訓練毎に良かった点や悪かった点を職員間で振り返り、全ての役割や手順の確認に努めている。訓練ではマニュアルの確認や通報の仕方などを再度学び、有事に備え職員が自主的に課題を捉えられるよう取り組んでいる。今年度は自治会や消防団の訓練参加を得ており、地域全体の安心へ繋がるよう努めている。今後は断水や停電時の対応など、風水害への備えについて更なる充実が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに配慮し、人格や守るべき情報は漏らさず対応している。	ホームでは前回の評価調査を踏まえて職員の言葉遣いについての目標を掲げ、ホーム全体で課題に取り組み改善を図っている。職員は方言を使うことで入居者との距離感が縮まることを良い点と捉える一方で、語調の強さが相手に誤解を与えることも課題と捉えている。職員の声掛けの仕方や誘導方法など、一部の職員の関わり方に課題が窺えるため、例えば言葉遣いや対応が「馴れ合い」になっていないか振り返りの機会を設けるなど、話し合い取り組むことが望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来、答えやすいような言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合わせて居室で休んだり、好きな時にリビングでテレビを見たりと、本人のペースで過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えや2ヶ月に1度のカットを行い支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物、食べたい物を尋ね、メニューに取り入れたり、本人に合った手伝いを頼み支援している。	献立は季節に応じた食材を取り入れており、入居者の言葉から食べたい物の意向を職員が汲み取っている。郷土料理の「いざりす」を一品に添えるなど、食事によって入居後も以前の暮らしに触れることができるよう取り組んでいる。また、食事の準備や片付けに入居者が積極的に関わられるよう働き掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を病院に尋ね一人ひとりの状態に合わせて、とろみが必要な人にはとろみをつけたものを提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後の義歯洗いと、口腔ケア、介助が必要な人は磨き直しを行い、1日の最後には入れ歯洗浄剤にて消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えがあったら誘導を行い、訴えが出来ない方には排泄表をチェックし誘導を行い、排泄出来るよう支援している。	ホームは住環境の特性を活かしながら入居者の身体機能の維持に努め、できるだけ起居動作が自力でできるよう働き掛けている。各居室にはトイレが完備されており、職員は入居者の手の届く範囲にその方が必要とする道具を準備し、失敗した際も本人が安心して排泄の後始末を自力でできるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量・散歩・運動を行い便秘予防に取り組んでいる。それでも便秘になる方は、主治医に相談し下剤の処方をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと時間を掛けて入浴を楽しんでもらったり、体調に合わせて入浴日を変更したり、要望に合わせて工夫している。	ホームには一般浴とリフト浴があり、入居者の身体の状態に柔軟に対応しながら安心して入浴ができるよう対応している。職員は入居者の身体の状態把握や清潔感を大切に、入居者それぞれの入浴方法を大事にしながらいで入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩や体操などの活動に参加して頂き、夜間気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は内容を確認し、状態変化があれば主治医に連絡し指示を仰ぎ必要あれば受診する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、好きな事、得意な事を理解し役割を持ち、達成感を味わえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は日光浴に出たり、散歩したり、季節に合った花見に手作り弁当を持ち、気分転換を行えるよう支援している。	現在、入居者の重度化や、職員の人材不足でホーム行事としての外出が困難な現状にあるが、家族の協力や個別支援で外出を実現し入居者の気分転換が図られるよう取り組んでいる。入居者の希望に応じて馴染みの店で一緒に手回り品や衣類を買ったり、行った先での出会いや交流を楽しんだりしながら馴染みの人や場所との関わりも意識した支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があったら、家族と相談し希望に添えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や訴えがあれば電話を掛けたりと可能な限り支援出来るよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を居室に置いたりし居心地良く過ごせるよう努め、季節に応じた壁画や飾り付けと一緒に作ったりして工夫している。	ホーム内は職員の手入れによって清潔に保たれている。職員は入居者の手の届く場所に手回り品の準備をすることで、自力で生活に参加できるよう配慮している。うちわを利用した手づくりの日めくりカレンダーの交換は入居者の日課となっている。また、入居者が思いおもいに過ごせるソファを設置し、入居者が自分の居場所を認識しながら安心して過ごせるよう共用空間を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	懐かしい歌を歌ったりクイズをしたり、ぬり絵やパズルに取組める空間を作ったりと工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるもの、本人の作品、家族写真等を飾り安心して過ごしていただけるよう工夫している。	入居者の重度化に伴い、手回り品の自力での管理が困難な入居者も増えている現状にあるが、職員は居室が入居者個々の空間であることを理解しながらその方の思いに添った居室づくりを支援している。一部仏壇やテレビの取り扱いについて入居者本人や家族の本意でない場面も窺われたため、本人を主体とした居心地の良い居室づくりに向けて、再度話し合いを持ちながら取り組むことを希望する。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に一人で居室に行けるように表札やベッドの位置をそれぞれに合った環境づくりを心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員同士で理念について把握し、ミーティングなどで話し合っ実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・運営推進会議を通じて、地域の方との交流の場を設ける事で、交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を通じて、認知症の理解について求めたり、説明をする事で活かせる様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で、今後のサービス向上に繋げられるような貴重な意見を時折頂いて、実践に繋げるように検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・情報公開をして意見交換しながら協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・毎月のミーティングの場で話し合い、身体拘束についての理解を深めていけるように勉強している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・上記に同じくミーティングなどで話し合うようにして虐待がない施設を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居者様に成年後見人制度を利用している方が居るのでこの機会に制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・慎重に丁寧な説明を行い、しっかりと理解して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を棟の玄関へ設置していて、いつでも記入できるようにし、意見等頂くとその都度議題に挙げて話し合うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1のミーティングなどで意見や提案を聞くようにし、更にその意見を検討した上で、上司まで報告するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・なるべく意見の反映はしているものの、すぐに対応が出来ているとは限らない、しかし良くなっている部分もあるので、今後も意見を述べ続ける事でより良い環境になるように努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内研修の場を設けて定期的に学べる時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市の協議会への参加や、行事などへの参加を積極的に行う事で他事業所との交流を持ち、自らの施設への向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人との話しや聞き取りを行い、本人に合ったサービスの提供に尽くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族への聞き取りもしっかりと行い、本人との思いを合わせてお互いが安心出来る環境作りが出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・定期的にモニタリングを基に本人と家族へ話しを聞いて適切なケアを目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・はき違えない様細心の注意を払いながら、ホームとしての特徴を活かし、関係作りに力を注いでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族との関係作りも大事にしながら、本人と職員と家族としっかりと意見や希望を聞いて、日々の生活の活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会に来られた際には本人と話しが出来る環境の提供をし、いつでも来られてもいいように準備している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・コミュニケーションを取れるように職員が間に入る事で、会話の機会を作るなどして関係作りや関わりを持って貰える様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院等など一旦退所となっても家族からの相談や話しを聞く環境は整えていて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・出来るだけの検討は行っており、意向や希望は取り入れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前や後でも聞き取りを行い、これまでの背景について把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日状態を確認しながら、現状の把握や職員間での話し合いをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員間での意見交換を基に、本人や家族等と話しを行い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の個人記録への記入は出来ていて、その都度状態をみて計画書等の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その都度本人の状態に合わせた、最適な支援が出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地元の環境である事を本人と理解し合い、安心できる暮らしの提供をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院受診は関係医療機関との連携を図り、必要に応じた受診支援を適切に行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・独自の看護記録を使用する事で情報の交換と共有が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・基本的には病院側の状態と本人の状態に合わせて、その時の指示等を受けて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・その都度家族へは相談をする様にしている、また方針についてはしっかりと話し合いを行い、お互いで納得できるように対応する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・経験が浅い職員になると対応が遅れる事があるので、連絡対応を徹底する事で慌てずに落ちついた対応が出来る様に努めている、また日々勉強するように伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	・防火管理者による研修と年2回の消防避難訓練への実施を行う事で対策を講じている、また1回は消防署、地域の消防団や自治会の方への参加をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・その場で声掛けの対応は変わって来るものの、基本的な対応や声掛けは各職員で意識して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いや希望を引き出せるように、日々努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・希望に沿った対応を心がけているが、出来ない場面もあり反省点として挙げ検討するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・服を選んで頂けるような声かけをして、本人らしい好まれる格好が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・出来る事を見つけて関わりを持ってもらい、好みの食事や苦手な食事は聞き取りを行い、満足してもらえるように対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事に関しては完食出来る様に対応し、水分も1日の目安を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアの声掛けは行っていて、自力で出来ない方へは手伝い、また義歯の方も同じように毎食後口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄パターンの把握をし、トイレへの誘導を定期的に1人1人行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・かかりつけ医の主治医との相談をしていて、身体を動かすなどこちら側で出来る事も行い、スムーズな排泄が出来る様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴に関しては本人と家族へ説明をし、入れる時間での声掛けをさせて頂いています、自立されている方は御自分の意思で入っていたりもいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の希望に沿って休む時間など個々で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各かかりつけ医より受けた説明を理解し、慎重な対応を行えるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の生活歴を聞き取りその上で現状出来る事があるならば、して頂ける環境作りの提供支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外出に関しては定期的受診か計画を立てての外出支援等でないと出来ない、家族からの要望がある方へは、行けるように準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族との相談のもと持てる方や家族がや本人が希望される方へはその都度検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望がある場合は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自然なままでの空間作りを意識しており、季節を感じられるものなど、取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・特別に決めている訳ではないが、自分の場所というのを決めておられる方もいらっしゃるようで、それぞれの意思や意見を反映出来るように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個人で過ごせる空間には、馴染みの物を取り入れるなど本人と家族と相談をして、住みやすい環境作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・全面バリアフリーである為、動線上の整理整頓をし、家族と話したうえで御自分の居室へ名前を張り出すなどして、安心できる環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 C棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に貼り理念に基づいた実践が出来る様に行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、学校等からの行事の誘いがあった場合には進んで参加と交流を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までの実践を生かしより良い支援が出来るように相談にのっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回はサービス向上をはかる為運営推進会議を行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報提供を行い協力を得るようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関コールの対応や見守りなどを行いながら日々の暮らしを支えるように取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加しながら情報を共有し虐待がないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し理解しながら対応に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来て頂き契約書の説明を行い理解されるように十分説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対して週に1度の現状報告を行い意見、要望を聞き入れるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を行いながら意見交換を行い問題点がないように心がけている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価は行っていないので給与に反映されづらい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があった場合に交替で行くように心がけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し情報の交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の会話から本人の求めている事や不安な事を理解しようと工夫している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要求や不安な事などどんな事など対応出来るか話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め状況等を把握し必要なサービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという事を考えを持って接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支えるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や身内の面会に気軽に来てもらうように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事をして頂き生きがいを持って楽しく過ごせるように出来る事は他の方々とも協力しながら支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所を利用している方にも会いに行く機会を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情、出来ない事を表情や行動から汲み取り把握するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、スタッフ共に町内出身者が多い為に色々な情報が入りやすい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る方や出来ない方も拒否されない限り参加して頂く		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と連絡を取り要望、アイデアを計画に取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄、本人の言葉など介護目標に添った様子を記入し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ通院買い物など柔軟に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学生のボランティアを受け入れ訪問美容サービスの利用を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、往診時に困った事は電話相談(24時間)出来る体制になっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の情報や気づきを介護記録へ記入し看護師に相談、意見をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院を受診した結果入院が決定した時点で家族に連絡し病院へ同行してもらう、常備薬の記録やサマリー等を持参している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族も一緒にかかりつけ医からの話しを聞き今後の家族の希望やホームとしてどこまで出来るのか話し合いを何度も行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の見やすい所に掲示し仕事の合間に職員間で話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の消防団や自治会も方の協力のもと消防署から年2回の訓練を受けている、AEDの使い方も講習を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けを行う時には優しい言葉で対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場その場で本人に自己決定出来るような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態に応じ日々を楽しくその人らしい生活が出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、外出時など本人に好きな物を選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日課としては出来る事は手伝ってもらい体調に応じて手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はチェック表にて把握し一人一人の状態に合わせて食べやすいように提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをうがいをして頂き細菌予防をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を行い尿意有無にかかわらず個人の時間を見計らいトイレで排尿出来るように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄行為を記録し十分な水分と食事の工夫など必要に応じて薬を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	これまでの本人の生活習慣や希望に合わせて入浴出来るように配慮している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調に合わせて日中の活動を促し生活リズムを整え休息が取れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人と薬の内容の確認を行い服用を支援している 薬の内容がすぐに出来るように保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が経験で得た事を生かし楽しみが増えるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設、地域での事業等に参加し外出する機会を増やししながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される方については外出時等お金を使用出来るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時には家族に電話し手紙などは可能な方に対して本人に書いてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて利用者、職員で作成し施設内の壁などに飾りつけを行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者、職員でテーブルを囲みながら貼り絵、歌などを楽しく過ごせるように工夫しながら支援を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具などを持ち込み生活しやすい空間を作っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリー居室前には表札を付け自分の居室が解かりやすいようにしている		